

さわやかに まごころをこめて

さわやか信用金庫は、日本経済の基盤を成す

中小企業と地域の人々とことん金融面で支えてまいります。

地域に密着した金融に徹し地域の皆さまと運命を共にしてまいります。

さわやかに まごころをこめて 常に良質な金融商品・サービスを提供し続けてまいります。

さわやかに まごころをこめて お客さま志向の経営に徹してまいります。

ごあいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。本年も当金庫に対するご理解をより一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「SAWAYAKA SHINKIN REPORT 2020」を作成いたしました。ぜひ、ご一読下さいますようお願い申し上げます。

2019年度は、「第六次さわやか3ヵ年計画」の中間年度であり、「新三位一体改革」の完遂を目指し、意識改革・新戦略の実施・仕組みの変革に取り組んだ結果、預金残高は1兆4,676億円、貸出金残高は8,222億円、収益面では、経常利益は17億円、当期純利益は15億円となりました。

2019年度の国内経済は、年後半には海外経済の減速、複数の大型台風上陸および消費税増税等の影響を受けて減速気味となるなか、年明け以降は、新型コロナウイルス感染拡大により社会・経済全般が大きな影響を受ける局面となりました。

このような状況のなかスタートした2020年度におきましては、まずは新型コロナウイルス問題への対応を最重要課題に掲げ、地域金融機関として中小事業者の資金繰り支援に最大限努めてまいります。また、ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据えて、お取引先の抱えている様々な課題解決に向けての取り組みを強化してまいります。

さわやか信用金庫は、これからも地域に密着し、今まで以上に地域の皆さまとの繋がりを大事にしていきたいと考えております。

どうぞ、今後とも変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2020年7月

理事長
篠 啓友



目次

ごあいさつ	1
基本理念・経営理念	3
新三位一体改革	4
さわやか信用金庫の考え方	5
業績ハイライト	7
お客さま支援	9
地域とともに	19
総代会	21
役員・組織図	23
1年のあゆみ	24
店舗一覧	25

基本理念・経営理念

基本理念と経営理念は、さわやか信用金庫が目指すものを簡明に表現したもので、その実現には「効率性」「透明性」「スピード」をキーワードとしております。

基本理念は、対外的に、言わばお客さまに対して当金庫の経営姿勢、金融機関としてのあり方を明示したものです。

経営理念は、その基本理念を実現していく上で、当金庫役職員がお客さまから絶大なる信頼を寄せていただけるよう、必須要件として取り組んでいかなければならない目標を掲げております。

そして、その目標を達成し、地域のお客さまに選ばれ、

地域になくてはならない金融機関となるために、

当金庫は「新三位一体改革」に取り組んでおります。

基本理念

- 1 日本経済の基盤を成す中小企業並びに地域の人々をとことん金融面で支える金融機関であること
- 2 地域に密着し、地域と運命を共にする金融機関であること
- 3 使い勝手のよい、良質な金融商品・サービスを提供し続ける金融機関であること

経営理念

- 1 多様化するニーズに十分応え得る体力と、弾力性に富む強固な財務体質の構築
- 2 役職員の能力向上と旺盛な勤務意欲の実現
- 3 経営（組織と運営）の効率化と透明性の確立

新三位一体改革

1 意識改革～お客さまのために全員が～

基本理念・経営理念の実現に向け、預貸金をはじめとした「金庫業績中心の目線」ではなく、今まで以上に「お客さま目線」に立つて考えるという意識を全役職員が共有いたします。当金庫の考える「お客さま目線」とは、お客さまの立場になり、企業や地域の課題を考え、その課題に対してお客さまとともに解決を図っていくことであります。

当金庫にとって、お客さまの課題を発見し解決していくことが、何よりも優先すべき業務の一つであると考えております。

2 新戦略の実施～お客さまのお役に立つ～

課題解決型営業への転換を図ります。都心エリア、城南エリア、郊外エリアの特色にマッチした営業戦略を推進し、お客さまの状況に応じた課題解決を図ることを営業の最大のテーマとします。その実現のために、取扱商品を見直し、お客さまのニーズに合った商品の取り扱いを検討してまいります。また、本部支援体制の強化や外部機関との更なる連携を含めたコンサルティング機能の充実を図ってまいります。

3 仕組みの変革～お客さまのために総合力を発揮する～

マイナス金利の長期化が見込まれる中、中長期的に持続可能なビジネスモデルを構築します。お客さまの利便性を考慮しながら、適正な店舗配置や人員構成を検討してまいります。また、より一層お客さまのお役に立てる人材の育成にも注力してまいります。

当金庫の概要 (2020年3月31日)

所在地	本部：東京都大田区萩中2丁目2番1号 本店：東京都港区三田5丁目21番5号	営業地区	東京都 23区、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、西東京市、 神奈川県 横浜市：鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区 川崎市：全区 相模原市（旧津久井町、旧相模湖町、旧藤野町、旧城山町を除く）
創立	1926年（大正15年）11月11日		
出資金	145億円		
預金量	1兆4,676億円		
融資量	8,222億円		
店舗数	64店舗（うち8出張所）		
店外ATM	16カ所		
役員数	1,062名		

さわやか信用金庫の考え方

当金庫では、2018年度より「第六次さわやか3ヵ年計画」に取り組んでおります。「地域とともに持続的な成長を目指して」をテーマに掲げて、さわやか信用金庫は邁進してまいります。

第六次さわやか3ヵ年計画 (2018年度～2020年度)

取り巻く環境の変化

少子高齢化、人口減少

産業のグローバル化

新たな成長分野の創出



地域のお客さま

ご相談・
ご依頼など
お客さまの
課題の解決

お客さま目線
の徹底による
お客さまの
満足度向上



さわやか信用金庫

地域とともに持続的な 成長を目指して

～取引先や地域社会の満足度の
向上を通じた金庫の
持続的な発展～

新三位一体改革の 完遂

1 意識改革 ～お客さまのために全員が～

- ・経営理念の実現に向け、お客さま目線の意識を全役職員が共有する
- ・「お客さま目線」による業務の見直し

2 新戦略の実施 ～お客さまのお役に立つ～

- ・課題解決型営業の徹底
- ・お客さまのライフステージに応じた課題解決支援の実施
- ・お客さま志向の金融商品・サービスの提供
- ・営業体制・営業施策の見直し
- ・コンサルティング能力の向上

3 仕組みの変革 ～お客さまのために総合力を発揮する～

- ・業務の効率化
- ・店舗機能の向上

業績ハイライト

2020年3月期の預金量は前期より6億円増加し、融資量は同63億円増加いたしました。

2020年3月期預金量

1兆4,676億円

都内23信用金庫中 第8位
全国255信用金庫中 第24位

2020年3月期融資量

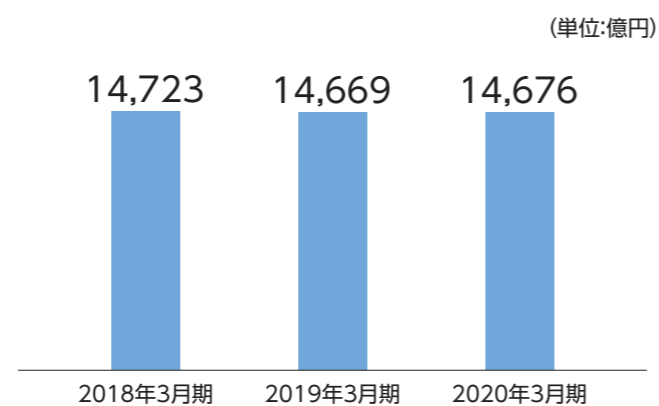
8,222億円

都内23信用金庫中 第8位
全国255信用金庫中 第22位

預金量

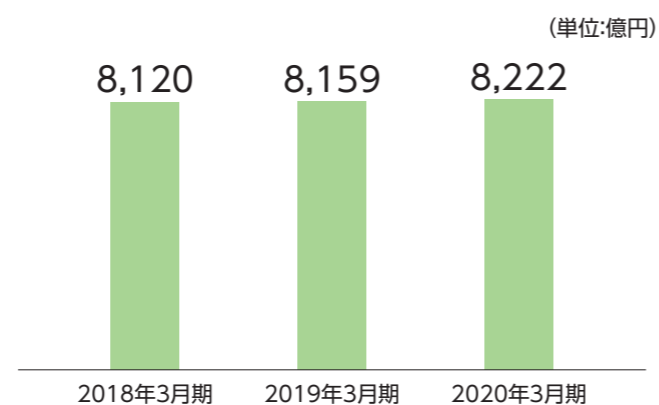
預金量は1兆4,676億円となり、前期比6億円の増加となりました。

個人のお取引先に対しては、資産活用、相続相談などのコンサルティング業務を強化し、2017年1月からは信託業務の取扱も開始しております。信金中央金庫の信託商品である「こころのバトン」、「こころのリボン」は、全国で165の信用金庫で取り扱いをしておりますが、2019年度までの累計において金額・件数ベースでともに2位と上位の実績をあげております。



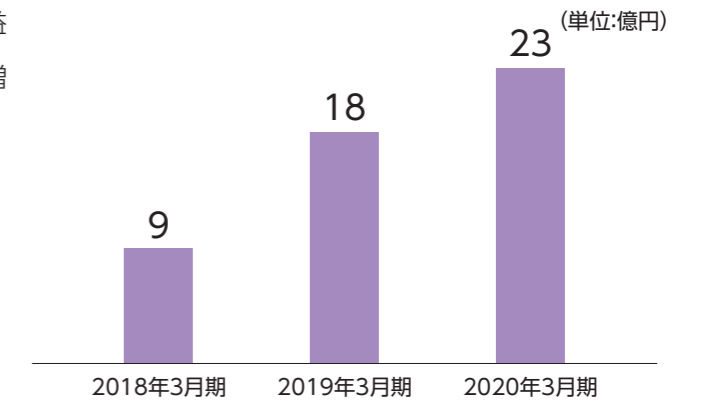
融資量

貸出金の残高は8,222億円となり、前期比63億円の増加となりました。お客さまの課題解決に真摯にこたえてきた結果、2019年度は新たに1,816先の事業先と取引が始まりました。課題解決型営業は着々とお客さまのお役に立ってきています。



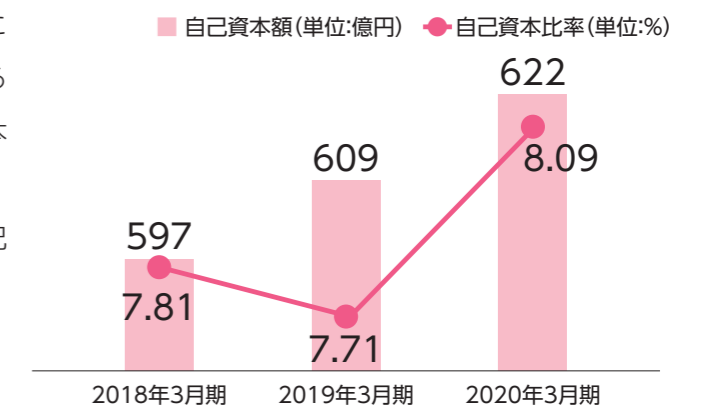
コア業務純益

余資利息の増加および経費削減の結果、本業の収益力を表すコア業務純益は、23億円と前期比5億円の増加となりました。



自己資本額・自己資本比率

分子である自己資本額は、内部留保の積み増し等により前期比13億円増加しました。一方で、分母であるリスクアセットは前期比で221億円減少し、自己資本比率は8.09%と前期比で0.38ポイント増加しました。今後も将来に備えて内部留保の積み増しを中心に自己資本比率の向上に努めてまいります。



不良債権額・不良債権比率

不良債権額は291億33百万円となり、前期比13億73百万円減少しました。不良債権比率についても3.50%と前期比0.20ポイント改善しました。今後とも、お取引先の経営改善支援に努め、不良債権比率の改善を図ってまいります。

